



国際会長 (IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

“Building today for a better tomorrow”

「よりよい明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田中 博之 (東京多摩みなみ)

“Action!” 「アクション」

東日本区理事 (RD) 山田 敏明 (十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動！」

“Innovation with Courage, Action with Heart”

湘南・沖縄部部长 (DG) 森田 幸二郎 (沖縄)

「ワイズを社会に広める基盤の再構築をする」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、地域、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Community, With Y's Men!”

会長 古田 和彦
副会長 金子 功
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 金子 功

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 青木 一弘

<今月の聖句>

金子 功

「愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。

(ローマ信徒への手紙 12章 19節)

今月のひとこと

「10月は世界宣教日礼拝(神の栄光のために走る)」

押川 幸男



1924年に開催されたパリ・オリンピックを舞台にした短距離ランナーの生き様を描いた感動の映画があります。

「炎のランナー」という映画です。実際の出来事をもとにした映画です。

主人公のエリック・リドルは、1902年、中国の天津で宣教師の家庭に生まれました。小さいときから信仰深く育てられ、スコットランドに戻ると神学校に入り、中国への宣教師の道を準備します。その後、その俊足のゆえにラグビーのスコットランド代表ウイングにも選ばれ、短距離で頭角を現してきました。エリック・リドルは、百メートルの金メダル最有力候補として、フランスに入りました。ところが困ったことが起きました。百メートルの予選が日曜日に組まれていて、リドルは予選出場を辞退すると言い出したのです。敬虔なキリスト者であり宣教師を目指すリドルは、日曜日を神を礼拝する日として大切にしていたのです。

イギリスのオリンピック委員会は、彼のために予選の日程の変更を要求しますが、かないませんでした。イギリス王室は、エリック・リドルに「一度くらい国家のために礼拝を休めないか」と迫りますが、彼は頑として聞き入れませんでした。リドルは教会学校の子どもたちにも「わたしは神の栄光のために走るんだ!」といつも言っていました。ですから走りたいのはやまやまです。けれども、神の栄光のために走ると言いながら、予選出場のために日曜日に礼拝に行かないのでは、神の栄光を曇らせることになる、と彼は考えました。国家の圧力にも屈しない、断固とした決断の前に、イギリス王室も引き下がらざるをえませんでした。

けれども、そのやりとりを聞いていたリドルの友人がこう提案したのです。「わたしが出場する予定の四百メートルに、リドルが代わって出たらどうでしょうか」。彼はすでに他の競技でメダルを取っていて、しかも、四百メートルは日曜日には開催されません。こうしてリドルは百メートルを棄権して、急遽四百メートルに出場することになったのです。四百メートル走の練習などしていなかったリドルでしたが、なんと世界新記録で優勝のテープを切ったのでした。躍動するリドルの走り、神の栄光のために走る彼の喜びにあふれた姿を見て、感動しない者はいなかったと思います。

映画はここで終わりです。けれども、リドルの話は、これで、終わりではありません。パリ・オリンピックの翌年、リドルは、オリンピックの金メダリストとしての自らの名声と栄光を捨てて、神の栄光のために中国に渡り、天津の教会で宣教師として働き始めます。そして日本軍の捕虜となり、捕虜収容所に収容され、終戦の直前、惜しくも43歳の若さで世を去ったのです。

リドルの話はまだ続きます。日本軍の捕虜収容所内で、リドルの教えを受けたイギリス人の子どもたちの何人かが、リ

<2019年9月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 7名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 2名 合計 9名	67 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<10月の行事予定>

EMC/E, YES

日	曜	時間	行事内容	場所
5	土	18:00	部役員会	中央Y
10	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
19	土	13:15	幼児サッカー大会	中央Y
24	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y
26	木	9:30	次期部長・主任研修会	Y同盟

ドルの思いを受け継ぐようにして、宣教師となって世界各地で働くようになるのです。そのなかにスティーブ宣教師がいました。彼もまた宣教師の両親と共に中国に住んでいた時、第二次大戦が勃発、捕虜収容所に入れられました。そこに、エリック・リドル宣教師も収容されており、彼が祈り会で「日本のため祈りましょう。自分の力では祈れなくとも、聖霊によって祈れます。」と勧めたそうです。

スティーブ宣教師は、リドルが亡くなる三週間前に、リドルからランニングシューズを譲り受けた人でもありました。それはあたかもリドルから「君も神の栄光のために走りなさい」と遺言されたようなものでした。そしてそのスティーブ宣教師は、その後、40年間日本の北海道と青森で宣教師として働いたのです。そのスティーブ宣教師がこう言っています。「リドル先生がわたしに与えてくれた最大のものは、彼の<赦しのバトン>です。リドル先生はわたしに、敵である日本を愛すること、日本人のために祈ることを教えてくれました」。

リドルの感化を受けたスティーブは、日本の国を赦し、愛し、その救いを願って宣教師となって40年にわたって日本で働いたのです。わたしは、この出来事の中に、過去に取り返しのつかないようなあやまちを犯した日本をなおも赦し、愛してくださる神のまなざしを覚えます。日本の私たちの教会の歩みは、このような大いなる愛と赦しに支えられていたのです。私たちはそのことを改めて覚え、そのことに応えていく歩みをなしていきたいと思わされます。

「9月第一例会報告」

伊藤 誠彦

日時 : 9月12日(木) 18:30~20:30

場所 : 横浜中央YMCA811号室

出席者: 伊藤、大江、大高、金子、古賀、齋藤、古田

ゲスト: 茂木 雄、高山 健 (聖坂学園、卓話者)

古田ワイズの司会により定刻に開始。古田会長による開会

点鐘、挨拶に続いてワイズソング、ワイズの信条唱和。次いで、古賀ワイズによる聖書朗読と解説。古田会長によるゲスト紹介の後、古賀ワイズによる食前感謝と食事。

今例会の卓話は、社会福祉法人聖坂学園法人本部高山健氏による『社会福祉法人 聖坂学園活動報告』。冒頭、高山氏は父上が東京世田谷ワイズメンズクラブの会員であったことも明かされた。

聖坂学園は学校法人聖坂学院と社会福祉法人聖坂学園の二つの法人からなる聖坂グループの一員である。その前身は、横浜港の舳(はしけ)水上生活者の児童を対象にして1942年に開校された日本水上学校である。その後、港湾の輸送もコンテナ船になり舳が必要なくなるとともに水上生活者も減少したことから、1967年には知的障がいのある養護学校、聖坂養護学校(小学部)を開校した。中学部、高等部と徐々に増設し、1985年には公立にはない高等部専攻科(2年間)まで設置し、14年間教育の体制を整えた。

その頃の大きな課題は、卒業後の進路問題、即ち、卒業生の働く場の確保であった。1989年、その前年に新



卓話者の高山さんとゲストの茂木さん(左)

たに認可を受けた社会福祉法人聖坂学園のもとに通所施設「オリブ工房」を開設した。その後必要に応じて、通所、入所、グループホームやパン工房などを開設し、今ではそれら大小12か所の施設を擁するに至っている。

横浜クラブでは2007年以来、聖坂学園には断続的にささやかな寄付をさせて頂いている。また、児童福祉施設である社会福祉法人日本水上学園には横浜訓盲学院と共に2000年以来、毎年、十勝じゃがいもを寄贈させていただいているが、日本水上学院と聖坂学園グループのルーツは同じ日本水上学校である。尚、聖坂学園の柴田昌一理事長には2008年9月例会で卓話を頂いている。(ブリテン2008年10月号参照)

卓話の後にはビジネス。今後の行事予定と出席予定者の確認を行った。主なところでは、YVLF(9/6-8)古田会長参加、横浜つづきクラブのYou & Iコンサート(9/28)チケット販売中、厚木クラブ移動例会(10/30)古田会長参加など。

この他、10月例会は本例会にもゲストで参加下さった茂木さんに卓話をお願いしていることから他クラブにも案内を確認した。本日のロバ献金は7千円。

「第86回YMCA-Y's協議会報告」

金子 功

第86回YMCA-Y's協議会が9月3日(火)19:00~20:30、横浜中央YMCA812教室で開かれた。今回は横浜とつかクラブが担当。瀬戸俊孝担当主事の司会により開会礼拝をもって始められた。

議事の進行は横浜とつかクラブの浦出会長。最初に田口総主事と、湘南・沖縄部森田部長(沖縄クラブ)の代理として古田次期湘南・沖縄部部長(横浜クラブ)の挨拶があった。協議事項としては、「ウォーターセーフティーキャンペー

ンの現状と今後の展開」と題して全国ウェルネス アクアティック担当のスタッフ（中央YMCA健康教育部の高田沙実さんと北YMCA健康教育部の田中誠也さん）から横浜YMCAの取り組みについて報告いただいた。報告に際して小冊子「WaterSafety ハンドブック 2019」と題する小冊子が配られ、それについての解説がなされた。全国の教育委員会等を通じて、今や 80 万部が全国のYMCA、教育委員会を通じて配布され水の事故からいのちを守る運動を展開しているとのことである。この小冊子印刷の経費削減を期して、今年初めてクラウドファンディングを利用したが、手数料を除き、383,000 円の資金協力を得ることができたとのことであった。

報告事項としては、横浜YMCAより、第26回AIDS文化フォーラム、日本語スピーチコンテスト、9/23 予定の会員スポーツ大会、11/16 予定のチャリティーランについて、又ワイズメンズクラブからは、7/27 の湘南・沖縄部評議会、及び8/22 の合同納涼会についての報告があった。各クラブからの報告を受けて予定の20:30に終了した。横浜クラブからは金子、古田が出席した。

「第32回YVLF報告」

古田 和彦



9月6日(金)～8日(日)の3日間、東京YMCA山中湖センターにおいて、ワイズメンズクラブ東日本区の全面的な支援

の下、第32回ユース・ボランティア・リーダーズ・フォーラム(YVLF)が開かれた。参加したユースリーダーは北海道から横浜までの東日本区地区のYMCAから40名、うち、横浜YMCAのユースリーダーは11名であった。彼らは5グループに分かれ、グループごとに先輩のリーダーOB/OGが付き、2泊3日、それぞれのYMCAの枠を超えた交流・学びの時を持った。東京の江東YMCAスタッフが全体の取りまとめを行い、支援・参加のワイズメンは19名であった。筆者は開会から翌日のキャンプファイヤーまでの参加だったが、垣間見た内容は次の通り。

9月6日(金)、17:00開会式で始まる。リーダーたちは東京駅に集合し貸し切りバスで16:30ごろに到着。東京駅で初めて会った若者たちにもかかわらず、バスの中での交わりで参加リーダーたちは十分打ち解けている。18:00から食事になり、ワイズたちも各グループに割り当てられ、リーダーたちとの交流を図る。19:00から基調講演。講師は江東YMCA委員の大沼謙一氏と同スタッフの堀江和弘氏で、リーダーたちへの願い・期待が語られた。終了後ワイズは別室で懇親会。

9月7日(土)、7:00から山中湖畔で朝の集い。心を静め、聖書の言葉を聞く。7:30朝食。9:00から各YMCAの報告と参加したワイズ一人一人が所属ワイズメンズクラブと自分を紹介する。このプログラム費用はすべてワイズ東日本区の負担であることも報告された。そののち、ワイズメンたちは昼食の準備に入る。例年に倣い、ワイズカレーとのことで、

火をおこし、大鍋2つ分のカレーを作る。薪が湿っていて火おこしに苦労したが、時間ギリギリにカレーができ、参加ワイズの持参したスイカ、ブドウ、トウモロコシと共にふるまう事ができた。リーダーたちは食事後山中湖でのカッタープログラム、ワイズたちは食事の後片付けをする。

夕食後、19:30からキャンプファイヤー。キャンプソングを十分に堪能し、筆者は21:00帰途に就いた。

プログラムによると9月8日(日)は聖日礼拝、グループディスカッション、グループ発表、閉会式の後各自報告書を作成し、バスで東京駅にて解散とのことである。

参加した感想は、先ず、今年で32回となるが、ワイズが継続してリーダー支援を続けてきたことに喜びを感じた。また、参加各リーダーは選ばれて参加したのものとして、これからのリーダー活動の中心としての活躍が期待される。最後に食事ごとに歌われたキャンプソングの一節を紹介する。「大切なものなんて、そんなにたくさんないよね。友達とおひさまとそれから優しい心」。本当に大切なものは何かを見極めることができる社会人となってほしいと心から願う。

湘南・沖縄部から参加のワイズメンは古田(横浜)、辻(つづき)、北村(厚木)の3名であった。

「近況報告」

大江 浩



8月下旬から9月初旬にかけて、YMCA東山荘で、日本では実に55年ぶりとなるYMCAの国際大会が開催されました。それに先立つ7月中旬には、皆様ご承知の、ワイズメンズクラブ国際協会のアジア太平洋地域大会 in 仙台が開催

され、ワイズとYMCAのダブルでのオリンピックイヤーのような怒涛の夏となりました。

第20回アジア・太平洋YMCA大会(9/2-6)及び直前のユース・アッセンブリー(8/31-9/2)のテーマは、”Living Together Within Nature on a Path to Peace(自然の恵みに抱かれ、平和に向かって共に生きる)”でした。21カ国と地域から377名(うち日本から129名)の参加者がYMCA東山荘に集いました。要点は以下の通りです。

主なプログラムは、平和活動家のSteven Leeper氏(元広島平和文化センター理事長・広島YMCA理事)の基調講演、各種ワークショップ、フィールドスタディ(横浜YMCA鶴見中央地域ケアプラザ、いずみ保育園等を含む)が行われました。

また大会総会では、4ヵ年報告(2016-2019)や次の4ヵ年計画(2020-2023)が示され、役員改選では横浜YMCA常議員の岡戸良子さん(同盟常議員・国際協力委員会委員長、世界同盟常務委員)がアジア太平洋YMCA同盟の理事に選出されました。

日韓関係の悪化がシリアスな状況となる中、懸念された韓国YMCA連盟からの参加が実現しました。このような時だからこそPeople to Peopleの交流は、国境を越え、政治やイデオロギーを超えて理解と和解へと導く道であると再確認をした次第です。しかし一方、「隣人」同士を分け隔てる歴史問題や対話の困難さという現実も目の当たりにしました。大会期間中に、日韓の昼食会がもたれ、日韓共同の「平和のた

めの祈り」が作成され、最終日に英語で読み上げられたことが、再び共に考え共に歩みだすための一つの契機になりました。

振り返れば、私が神戸YMCAに入職後3年目の1983年に参加した香港（中国返還前）で開催されたYMCAアジア青年指導者会議（現在のアジア太平洋YMCA大会）は私自身にとって、YMCAでの働きと人生を方向付ける大会でした。アジア・世界に視野を広げ、” Think Globally, Act Locally.（世界を見つめ、地域に生きる） “のリアリティを実体験する貴重な時となり、その大会では今月の例会の卓話者である茂木雄さんとの出会いも与えられました。私とその時のワールドスタディで訪れたのは、九龍島の崖っぷちに折り重なる不法住居地区（いわゆるスラム街）でした。私たちの訪問の直前に香港を襲った台風による惨状を目の当たりにしたことを鮮明に覚えています。アジア・世界とつながり、「共に生きる」を目指すYMCAの一員であることの恵みに感謝します。

9月第2例会報告

古田 和彦

日時：9月26日（木）17：00～19：00

場所：中央YMCA 811教室

出席者：青木、伊藤、金子、古賀、古田

協議・確認・検討事項

- 1) 10月～11月の行事予定確認
- 2) 10月例会の卓話は「横浜YMCAの国際交流の経験に想う」茂木雄氏。他クラブ、ゲストへの案内を行う。
- 3) 第4回ワイズチャリティーサッカーフェスティバル（10/19）、当日参加者、役割は後日調整。
- 4) ジャガイモ寄贈先の決定。中央Yウエルカムフェスタ、水上学園、横浜訓盲院に各10箱。
- 5) チャリティーラン（11/16）には昨年同様1チーム分（中央Y健康教育）支援。
- 6) チャリティーランTシャツの申し込みは10月例会で取りまとめる。
- 7) 次期クラブ役員（および部役員）について懇談。
- 8) 横浜クラブ創立90周年記念式典準備について、式典日程と内容（記念礼拝・例会・懇親会など）、記念誌他。
- 9) 来年の日本語スピーチコンテストは10月1日の予定。



担当主事 青木 一弘

●YMCAキャンプ100年

2020年にYMCAはキャンプ100年を迎えます。日本YMCA同盟ではキャンプ100年に向け「キャンプにまつわる100のYMCAストーリー」を紹介しています。この度、横浜ワイズのメンバーである金子功さんのストーリーが紹介されましたので、是非ご覧ください。

<https://www.ymcajapan.org/campaign/camp100th/>



●日本語学科・前期修了式

横浜YMCA学院専門学校日本語学科で、2019年度前期修了式を行いました。12名の学生が卒業となり、このメンバーでは最後になるクラスでの時間を過ごした後、100名を超える学生全員で卒業・修了パーティを行いました。YMCAで切磋琢磨しながら学んだ日本語を生かし、ともに学んだ仲間との絆を大切に、それぞれの道へ羽ばたいていって欲しいと思います。



卒業生の皆さん

●YMCA平和月間

YMCAでは、11月1日（金）より11月30日（土）までの期間を平和月間として、鳩の形をした用紙に平和へのメッセージを書いて館内に掲示をしています。横浜中央Yでも1階ロビーに用紙と掲示板を用意します。一人でも多くの方に、メッセージをお書きいただき、平和の鳩が沢山飛び立つことを願いとしています。来館の際には、ご協力をお願いします。

10月例会プログラム

日時：10月10日（木）18：30～20：30

場所：横浜中央YMCA 811号室

司会：金子ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶 古田会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 全員
3. 今月の聖句 金子ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介 古田会長
5. 食前感謝 金子ワイズ
6. 食事
7. 卓話 「横浜YMCAの国際交流の経験に想う」
元横浜YMCA理事 茂木 雄氏
8. ビジネス・報告 古田会長、他
9. *Happy Birthday* 遠藤 喜七(7)
9. 閉会点鐘 古田会長

例会報告 古賀ワイズ

11月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
14	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
16	木	9:00	チャリティーラン	臨港パーク
23	木	10:00	ウエルカムフェスタ	中央Y
28	木	18:30	横浜クラブ第二例会	中央Y
30	土	15:00	第2回部評議会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080